# ２０１９年度（令和元年度）広島市立大学卒業式
# 国際学部長メッセージ

国際学研究科修了生のみなさん、学位取得おめでとうございます。国際学部卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、残念ながらご列席たまわることができませんでした保護者のみなさま、本日はまことにおめでとうございます。

本日修了および卒業を迎えるみなさんは、改めて今、みずからの学生生活を振り返ったとき、何を一番に思い浮かべるでしょうか。学生生活はわずか数年間で、長い一生から見た場合には短い期間ですが、豊かな時間を自分自身の責任において自由に使うことができるという意味では、貴重な時期でした。この時期に学んだことや考えたこと、そして経験したことは、それらが充実したポジティブなものであればなおのこと、たとえ失敗や迷いや回り道のように思えるものであったとしても、自分自身が考え選び取ったものであるならば、それらは、情報があふれ多様な価値観が共存する時代に生きていくうえで、みなさん自身を支えていく意味のあるものとなるでしょう。まして、現在のように新型の感染症にどう対応すべきかといった、ベスト・アンサーなどない事態にどう対応していくかについて一人ひとりが判断していかねばならない現実に直面したとき、国際学部で培ってきた、さまざまな立場や視点から検証して考える姿勢もまた、みなさんを支えていくでしょう。

改めて、イギリスの作家ジョージ・エリオットによる、よく知られた言葉を、みなさんに贈ります。

“It is never too late to be what you might have been.”

「自分はこうしたい（したかった）」「こういう人間でありたい（ありたかった）」と思えた時、そこはいつでもスタート地点です。国際学部および国際学研究科における学びは今日で一区切りですが、みなさんがここで身に付けたさまざまなことが、次のステージにおいてこれからのみなさんを

支えていく一助となることを願いつつ、またみなさんの今後のご健康、ご活躍を心より祈念して、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

2020 年（令和２年）３月２３日
公立大学法人広島市立大学　国際学部学部長・国際学研究科長
大庭　千恵子